

寺報

No.678

令和6年2月

蓮華寺
發行

御聖訓

度々の御志ありて、たゆむけし
きはみへさせ給はねば、御本尊は
わたしまいらせて候なり。それも
終にはいかんがとおそれ思ふ事、
薄氷をふみ、太
刀に向ふが如
し。

『新尼御前御返事』



(解説)

『新尼御前は本当に法華経への信仰心の勝れた方です。』

私(日蓮大聖人)に度々の厚い志しを寄せられ、信仰心がたゆむ様子は、少しも見られませんでした。そこで、ここに御本尊を授与したいと思えます。しかし、生涯求道の決意がなければ、うすい氷の上で大きな刀に向うように心もとない気もします。』
日蓮大聖人は【大曼荼羅御本尊】は飾り物ではなくこれを受持されてからが本当の信仰の始まりであり生涯に渡り信心の決意を固めなければならぬのだと教えられました。
この事から、御本尊は当時の人は日蓮大聖人からその信仰心の強さが認められて初めて、その証しとして授与された、誠に有り難いものだとお分りになると思えます。
ですから、御本尊をお祀りするという事は、大聖人の教えを実行すると誓ったのと同じ事なのです。どうか皆様も、御本尊の前で心より法華経・お題目を唱え、より強い信仰心を養っていきましょ。

節分会のお知らせ

二月三日(土)

午後六時開始

男性大厄

数え二十五歳	平成十二年生れ
数え四十二歳	昭和五十八年生れ

女性大厄

数え十 九歳	平成十八年生れ
数え三十三歳	平成四年生れ

年男・年女

昭和三年・十五年・二十七年
三十九年・五十一年・六十三年生れ
平成十二年・二十四年生れ
令和六年生れ

(辰年)

その他

・前厄・後厄(厄年の前後)

- ・還暦(六十一歳)・古稀(七十歳)
- ・喜寿(七十七歳)・傘寿(八十歳)
- ・米寿(八十八歳)・卒寿(九十歳)
- ・白寿(九十九歳)

①今年ご祈祷希望者はどなたでも受けられます。



★八方塞がり

困った状態を表す時に使う『八方塞がり』という言葉があります。

この年に当る人は何をやっても上手くいかず、どうしようもない状態におちいつたり、またどの方面に行っても差し障りが出てくる事があります。

八方とは「東・西・南・北・南東・南西・北東・北西」をいいますが、この方角よりも、皆様一人一人が持つています年令ごとの星回りに現れる厄を、この年にお祓いしなくてはなりません。

これを『八方塞がり』の厄除け祈祷といえます。

*令和六年度の八方塞がり

男女共通(数え年)

大正十四年(百歳)生れ
昭和九年(九十一歳)・十八年(八十二歳)
二十七年(七十三歳)・三十六年(六十四歳)
四十五年(五十五歳)・五十四年(四十六歳)
六十三年(三十七歳)生れ
平成九年(二十八歳)・十八年(十九歳)
二十七年(十歳)生れ
令和六年(一歳)生れ

★厄払い・三千五百円

- ◎豆まき◎祈願読上げ
- ◎ご祈祷◎厄札◎絵馬
- ◎福豆のお土産等

②当日、ご本人が来られない場合は、代理の方か、または帯・ベルト・着物・肌着等、身に着ける物をご持参下さい。

前もってお寺に預かれても結構です。

★一般祈願・千円(◎節分札◎祈願読上げ)

【随時受付中】

当山蓮華寺では、本年大厄(前厄・後厄も含む)に当ります男女、また千支の辰【たつ】年に当ります年男・年女、更に今年『八方塞がり』の方、今年特別にご祈祷を希望する方々に、まず厄払いのご祈祷とお加持を受けて戴き、次に豆まき(落花生)、最後に絵馬



と厄除けのお札、お土産をお渡し致します。この時、お渡しする『絵馬』は、その場か後でも差し支えありませんが、住所・氏名・数え年、そして一年間の願い事を書いてお寺にお納め下さい。お寺ではこれを一年間、大本堂の御寶前に奉納し毎朝祈願のお経をお上げします。また、『厄除けのお札』はご本人が寝ている部屋の柱の上の方に、一年間張って下さい。向きは、寝ている方の頭の方向がよいでしょう。必ずお願い致します。

厄払い

私達が一生の中で、特に災難に遭う恐れが多く、慎みたい年を『厄年』といいます。

男性は二十五歳と四十二歳、女性は十九歳と三十三歳の、いずれも数え年を『大厄』といい、またその前後の年を『前厄』『後厄』といひまして、この三年間を慎む風習が昔からあります。

厄年に当る人が、神仏の前で厄災の起こらないようにと祈念する行事を『厄払い』、また除厄祈祷といひます。

日蓮大聖人は、法華経を信仰する事で「三十三の厄、転じて三十三の幸いとならせ給うべし」と教えられ、昔から信者の厄年の男女は、法華経・お題目の力によつて除厄得幸を祈つてきました。

当山では、厄年以外の今年「辰年」の『年男・年女』また『還暦』『古稀』『喜寿』『傘寿』『米寿』『卒寿』『白寿』等、更にその年の除災を願う方々は、どなたでもご祈禱を受ける事が出来ます。

また一般の参拝の方々は、除厄された方よりまかれる豆を拾い、今年の福を分けてもらつて下さい。

『鬼』とは？

古来より、日本では『鬼』といえど『神』と同じ扱いをし、人間よりも遥かに大きな力を持っているものとされてきました。

しかし、仏教が伝えられて来ますと、鬼イコール邪鬼・夜叉・餓鬼などの悪鬼と見られるようになり、いつの間にか鬼といえど恐ろしいものと変化したのです。更に、これに中国の鬼「キ」という亡霊を意味する思想が加わつた為に、日本の鬼は様々に融合され今

日のものが出来上がったようです。また、中国には陰陽道という学問があり、その中に鬼門というものが説かれています。鬼門とは、悪鬼（亡霊）が出入りするという北東の方角をいい、避けるべき場所をいいます。

この教えは我が国でも受け入れられ、よく北東の方角は鬼門に当るから、仏壇・神棚・玄関・トイレなどを作るとよくないといわれるようになったのです。

ところで、皆様も鬼といえど角を生やし、怖い形相で牙をむき、手には金棒を持ち、虎皮のパンツをはいたスタイルを想像すると思いますが、これも同じく鬼門から来ているといわれています。

これは定かではありませんが、昔、北東の鬼門の方角を「艮」（ウシトラ）と呼びましたが、この「艮」をウシとトラに分けて考え、牛のように角を生やし、虎の皮のパンツをまとつた鬼の姿が出来上がったという説です。

ともかく、今日のイメージに近い鬼が誕生したのは、平安の末期頃ではないかと言われています。



『星 祭』お申し込みのお知らせ

当山では毎年三月に行われます『星祭』の期間中皆様のご家族のお名前と数え年を記入しました「星」（剣守札）をお祀りして、その年の善星が皆来し、悪星が退散して、一年間無事安泰でありますようにと祈願致します。

その時に、皆様がお受けになります「星」のお申し込みは、事務所に置いてあります専用の用紙に、ご家族のお名前・性別・数え年・住所等をお書きの上、お早めにお申し込み下さい。

※剣守札（星）【一体・・・二百円】



どうか、檀信徒の皆様は、是非とも毎年この「星」（剣守札）をお申し込み戴き、そして、いまだ知らない方がおりましたら、お勧めになりますようにお願い致します。

二月十三日（火）より受付します。

永代供養堂

当山会館の三階にあります「永代供養堂」は、今後後を見る事が出来ない仏様をご供養する所です。

まず、当山指定のお位牌の正面に『ご戒名』または『先祖代々之諸精霊』と彫り、裏面には施主名を彫り御寶前にお祀りします。

そして、蓮華寺のお寺が続く限り、永遠にご供養して参ります。

ここでは、毎朝僧侶がお経を上げ、ご命日にはご戒名を読み上げますし、また先祖代々のご供養はお申し込みのあつた日に読み上げをしています。

永代供養塔

当山境内にあります「永代供養塔」は、今後、後を見る事が出来ない『個人のお骨』また『先祖代々のお骨』を埋骨し、永代に渡りご供養しております。

ここは、毎月僧侶がお経を上げ、ご供養を欠かす事はありません。

(注)どちらも詳細は、当山事務所までご相談下さい。

☎ 017-776-5840

『御守護』札を

貼付しましょう！

当山で毎年年末に用意致します『御守護札』は、蓮華寺の檀家である証明と、その家をご守護する為のお札ですので、必ず玄関に貼付するようにして下さい。まだ檀家の中でも知らないで、貼付していない家庭も沢山あります。



(五百円)

また、その年に家でご不幸などがあつた場合でも、御札・御幣等は必ず毎年取り替えるようにして下さい。

☆霊断

檀信徒の皆様で、日頃から何か困り事や悩み事がありましたら、迷わずに蓮華寺までご相談下さい。

日蓮宗に伝わる秘法『九識霊断法』にて当山僧侶が解決、ご指導致します。

なお、宗旨宗派は問いません。 ☎776-5840

【相談料は原則として三千元となります】

【盛運祈願会】に参拝し

お守りを戴きましょう

毎月ついたち午後一時からの、お守り（俱生霊神符）を戴く行事を「盛運祈願会」といいます。

ついたちの日が仕事や諸用で忙しいとか、またご遠方の方は仕方ありませんが、是非「盛運祈願会」に参拝してお守りを戴いて下さい。

そして、我々はお守りを戴くだけではなく、御寶前に於きましてご本尊様・日蓮大聖人様・諸天善神・俱生霊神様に

『一ヶ月間どうも有り難うございました。また、今月もよろしくお願い致します。』

と、御礼する事が大事なのです。

更に、我々が知らず知らずの間に作つて来た罪を、自らが懺悔滅罪し、一心に盛運を祈願して、俱生霊神のご守護をより強くする事も忘れてはいけません。

また、我々の身体はご先祖様より受け継がれたものです。

ですから、皆様ご自身の懺悔滅罪だけではなく、先祖の懺悔滅罪そして成仏を願う事も大事な事です。

身に着ける「お守り」

当山では、次の三つのお守りを、全檀信徒の皆様にも必ず身に付けて戴きますようお願いしています。

霊神符



生命に係わる事故や災難から身を護るお守りで、必ず身に付けて、毎月交換して戴きます。

五段のお守り



我々の計り知れない死霊・生霊・野狐・厄神・呪詛の五段の邪気から身を護るお守りで、年に一回交換します。

カード型ご本尊



日蓮宗の大曼荼羅御本尊を小型化したお守りで、右の二つのお守りを、更に強くお護りして戴く為に一緒に身に付けて、年に一回交換します。

『霊神符』を持ちましょう！

最近は思いもよらない事故・事件・災害が多発して特に、お子さんやお年寄りが多く巻き込まれている状態です。

檀信徒の皆様も「私だけは大丈夫」というお考えはお止めになりまして、素直に毎月『霊神符』（お守り）を肌身離さずお持ちになりますようお願いいたします。

【一体・百八十円】

『聖徒団会員』募集！

毎月ついたちの「盛運祈願会」の中で、任職上人が各会員の『家内安全』をご祈願致します。その他、大本堂御寶前のお花、皆様にお配りする新聞『聖徒タイムズ』・寺報等の援助などに活用します。 会費・・年額二、四〇〇円（月二百円）

『提灯』の募集！

当山で『お正月』『鬼子母神大祭』『御会式』に下げます『提灯』（トローラー）を募集致します。 作成価格は八千円、年間の管理費が二千円ですので、初年度は一万円となります。

二月の行事

一 日(木) 『盛運祈願会』 午後一時より

- ・ 毎月のお守り【霊神符】の交換の日です。
- ・ お勤めに参拝し、お経とお題目を唱え、お守りを交換しましょう。
- ・ 聖典(お教本)と数珠は必ずご持参下さい。
- ・ 檀信徒の方は必ずお守りを持ちましょう。



三 日(土) 『節分会』 午後六時より

- 十三日(火) 『日蓮大聖人のご命日』 午後一時より
- ・ お経 如来神力品第二十一 (訓読・日本語読み)
 - ・ 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み)
 - ・ 日蓮大聖人へのご報恩を忘れず参拝しましょう。

二十四日(土) 『妙見小祭』 朝のお勤め中

☆奉仕のお知らせ

三 日(土) 『節分会』のお手伝いと後片付け

教宣部男女・午後三時より

* 今月は、「節分会」の大有事がありますので、お手伝いの方が沢山必要です。

どうか皆様のご協力をよろしくお願い致します。

② 一般檀信徒の方でご奉仕出来ます方は、当日時間までにご集合下さい。 ◎教宣部長・杉淵昌三

☆奉納のお知らせ

※蓮華寺玄関の門松

松森にお住まいの「千葉和榮・芳子」様より、当山玄関に門松一对が奉納されました。

誠に有り難うございました。

※『位牌堂』御寶前の盤子台

松森の「浅野屋仏壇店」様より、『位牌堂』正面の御寶前に盤子(カネ)の台座が奉納されました。

誠に有り難うございました。